

(11) 九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（ は上方に変更、 は下方に変更）。

前回からの主要変更点

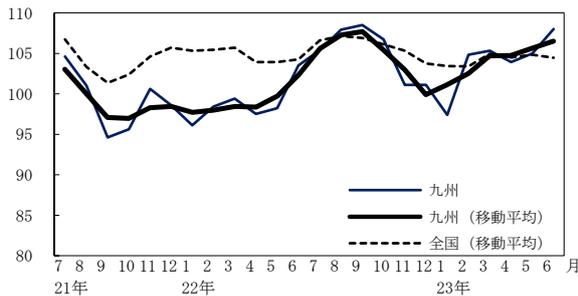
	前回（令和5年5月）	今回（令和5年9月）	
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	緩やかに持ち直している	↑
雇用情勢	持ち直している	改善の動きがみられる	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

4－6月期の鉱工業生産は、前期比3.0%増となった。月別にみると、4月は電子部品・デバイスが減少したこと等により前月比1.3%減、5月は電子部品・デバイスが増加したこと等により同1.1%増、6月は電子部品・デバイスが増加したこと等により同2.9%増となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
電子部品・デバイス	13.6	▲0.5	▲5.6	▲15.3	9.5	20.0
輸送機械	13.5	9.2	23.0	15.7	1.2	▲6.7
食料品	12.2	1.2	3.2	▲1.2	4.4	▲0.4
汎用・生産用・業務用機械	12.2	▲4.7	▲2.8	▲4.8	▲1.6	▲0.7
化学・石油石炭製品	10.0	1.0	1.9	▲0.7	6.5	▲1.5
鉱工業	100.0	▲0.5	3.0	▲1.3	1.1	2.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4－6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100（全国は2020年=100）、季節調整値。

九州の最新月は速報値。

2. 全国及び九州の太線は中心3か月移動平均。

直近月は2か月平均。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数（RDEI（消費））

4－6月期は前期比0.9%減となった。月別にみると、4月は前月比0.6%減、5月は同0.6%増、6月は同0.1%増となった。

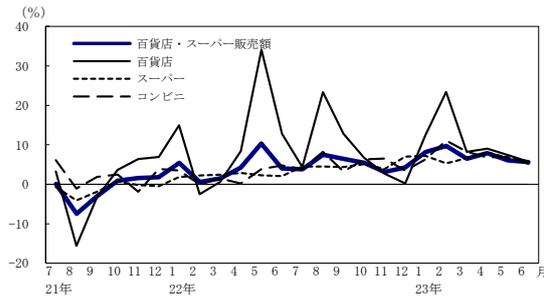
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4－6月期は前年同期比6.5%増となった。月別にみると、4月は前年同月比7.9%増、5月は同6.1%増、6月は同5.6%増となった。

百貨店は、4－6月期は前年同期比7.3%増となった。

スーパーは、4－6月期は同6.9%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2023年4-6月	2023年4月	5月	6月
RDEI（消費*1）	▲0.9	▲0.6	0.6	0.1
百貨店・スーパー(*2)	6.5	7.9	6.1	5.6
百貨店(*3)	7.3	9.0	7.4	5.7
スーパー(*3)	6.9	8.1	6.7	5.8
コンビニ(*3)	6.3	6.8	7.0	5.2
乗用車(*4)	22.8	16.7	28.3	24.4
(季節調整値) (*4)	5.4	5.2	▲0.1	9.1

(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

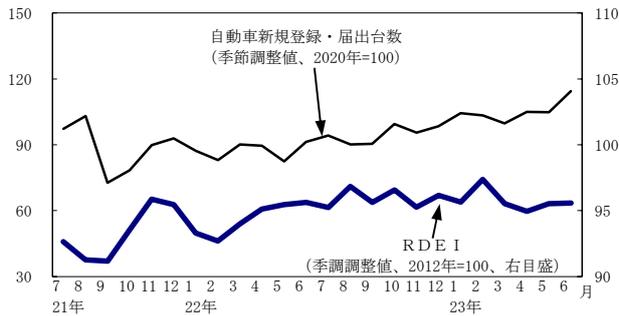
3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパーは沖縄を含む経済産業省の九州の値。

コンビニは、経済産業省の九州・沖縄の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%)

RDEI（消費）と自動車新規登録・届出台数の推移

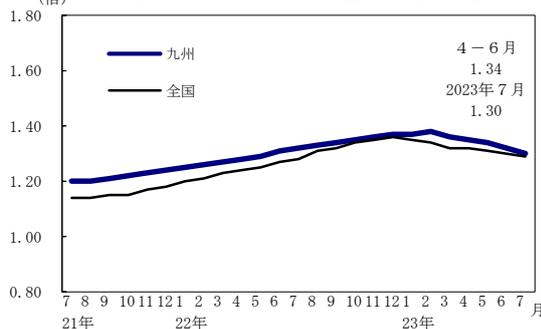


3. 雇用情勢

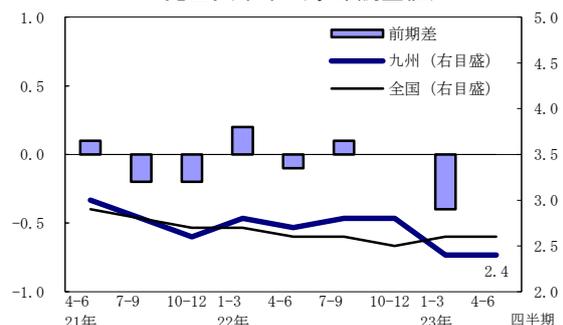
雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率は低下しているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある（P10 参照）。一般労働者の定期給与は上昇している（P10 参照）。完全失業率は前期と同水準となっている。

有効求人倍率（季節調整済、就業地別）



完全失業率（季節調整値）



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年7月調査）景気判断理由の概要

11. 九州

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由
家計動向関連	□	・売上は前年を超えてはいるが、同業他社や量販店でも伸長しているため、季節要因が大きいと考えられ、当店の景気が良くなったわけではない（家電量販店）。
	○	・当県では世界水泳選手権をはじめ多くのイベントが開催されており、国内外からの観光客が増加しているため、来客数も増えている（コンビニ）。
	▲	・毎月の生活必需品の値上がりで消費マインドが落ち込んでおり、加えて、猛暑のため午前中に食料品を購入して帰宅する客が多い。そのため、午後から商店街の人通りが極端に少なく、売上も期待できない（商店街）。
企業動向関連	□	・半導体製造装置に関する金属加工品の受注量が減少傾向にある（一般機械器具製造業）。
	○	・家電の販売はやや弱い、百貨店やスーパーマーケットの売上が持ち直しているほか、飲食店や旅館・ホテルの売上も増加している。また、人手不足のため、賃上げに踏み切る企業が増加しており、労働者の所得環境も改善の動きがみられる（金融業）。
	▲	・電気料金や原材料の物価上昇の影響が大きく、工賃交渉により上乘せできても、半年もしないうちにまた値上げしていく状況である（繊維工業）。
雇用関連	□	・イベントや会合が再開され、企業主催も増えている。イベント等への参加機会が増え、情報交換などビジネス交流会も盛んになっている。しかし、参加会費の値上げも多く、交流は増えているが物価の上昇も感じられる（新聞社〔求人広告〕）。
	○	・企業から新規採用の注文が増えている。派遣登録の予約の後に採用が決まり登録辞退する人や、登録後すぐに仕事が決まる人が増えている。後任の採用だけでなく、増員で募集している企業も多い（人材派遣会社）。
その他の特徴コメント		○：話題性の高い新型車の発表に伴い、来客数が増えている。また、メーカーの供給制限の緩和により、販売も増えている（乗用車販売店）。 ○：夏休みに入り、国内外の観光客の増加に加えて世界的なスポーツ大会の開催などイベントがめじろ押しで、当地においては非常に活気付いている（タクシー運転手）。
分野	判断	判断の理由
家計動向関連	□	・夏休みは活動的になるが、物価上昇に対する備えで消費意欲がより引締め気味になるため、景気が良くなるとは考えにくい（スーパー）。
	○	・来客数が増加傾向にあり、にぎわいを取り戻しつつある。婦人衣料品や食料品を中心に売上も改善すると考えられる（百貨店）。
企業動向関連	□	・売上はある程度見込めると予想しているが、原材料や人件費の上昇と商品値上げとのバランスもあり、どの程度の値上げが浸透していくかが難しい問題点である（窯業・土石製品製造業）。
	○	・予算計画数に対して上振れが続いており、第2四半期も売上の増加を予測している（輸送用機械器具製造業）。
雇用関連	□	・企業からの問合せが増え、求職者の動きも活発になると派遣稼働件数は増加し、好景気となる。しかし、企業側と求職者の就業条件などが合わず、人選に時間を要していることに変わりがないため、景気は変わらない（人材派遣会社）。
その他の特徴コメント		○：徐々に売上は良くなると考えられるが、人手不足が解消されないために、フル営業できず、売上は伸び悩むことになる（観光型ホテル）。 ▲：暑さの影響でエアコンや冷蔵庫など白物家電が好調である。一方、テレビやパソコンなどの黒物家電は売上が伸びない。新型コロナウイルス感染症が落ち着いてはいるが、物価高騰により需要が停滞するのではないかと危惧している（家電量販店）。

(D I) 現状・先行き判断D I（九州）の推移（季節調整値）

